

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001088		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩		
所在地	愛知県名古屋市中川区大塩町三丁目25番地		
自己評価作成日	平成30年8月31日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001088-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成30年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ごとのニーズや季節に応じた各種行事を行なっています。春は桜、夏は花火、秋は紅葉、冬は室内行事を中心に、皆様で色々なことを行っています。その他にも喫茶店や外食ツアー、お買い物や動植物との触れ合いに出かけたりしています。また一人一人の出来る力を引き出せるような活動を考えながら支援させて頂いております。1ユニットのグループホームであることから、職員と利用者様の意思疎通が図り易く、一人ひとりの笑顔と想いを大切にできる家庭的な施設です。職員は協力して、ご利用者様の変化を見逃さず、ご利用者様が日々を安心して過ごして頂ける明るい雰囲気の施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、1ユニットのホームであり、少人数の職員体制による支援が行われている。日常的に職員間で利用者に関する情報交換を行いながら、利用者のその時の状況に合わせた柔軟な対応が行われている。利用者にとってホームでの生活が、より良い生活の実現につながるよう一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。ホームのリビングには、季節等にも合わせた飾り付けや動物等の絵を飾る等の取り組みが行われている。利用者がホームでの生活を穏やかに過ごしてもらえるように、アットホームな雰囲気づくりにも取り組んでいる。運営法人の関連事業所との連携にも前向きな交流が行われており、定期的に開催している運営推進会議の際には、関連事業所の管理者も参加する機会をつくっており、相互の情報交換や出された意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「一人ひとりの笑顔と想いを大切にし、地域の一人ひとりに愛されるホームを目指す」という事業所理念のもとに、その実践を目指し日々職務を遂行している。事業所理念は玄関に掲示し、共有している。	ホーム独自の理念がつくられており、利用者一人ひとりの想いを大切にするを旨とした内容となっている。また、職員で目標をつくる取り組みを行いながら、理念の内容の共有と実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行なわれるお祭り等に参加させて頂き、交流を行なっている。 日々の散歩ではあいさつを交わしながら会話をすることも出来ている。	地域で行われている秋祭り等の行事の際には、ホームからも参加する機会をつくっている他にも保育園との交流が行われている。また、中学生の職場体験の受け入れが行われており、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方から相談があれば積極的に対応し、また実習生の受け入れを積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、参加者から出た意見を参考にして、サービス向上に努めている	法人代表者が地域の役員を務めていることもあり、会議の際には代表者が地域住民としても参加している。また、関連事業所の管理者も会議に出席しており、ホーム運営上の情報交換の機会にもつながっている。	会議に家族の参加が得られていない状況が続いている。ホームからの継続的な家族への参加の働きかけにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に区役所の保護係などを訪ね、状況を報告している。 市町村実施の説明会などにも毎回参加し情報を得て、サービス向上に繋げている。	ホームでは、生活保護の方の受け入れが行われていることで、市の担当部署との情報交換等が行われている。区内の介護事業所が集まる連絡会にホームからも参加する機会をつくっている。また、区で行われている行事への参加も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は18:00～翌7:00までは防犯のため施錠しているが、それ以外の時間帯では有事の際を除いて開放している。 身体拘束の廃止に関するマニュアルを、職員が閲覧出来るようにし、身体拘束を行わないケアの実践に日々努めている。	身体拘束を行わない方針で支援に取り組んでいるが、外部の方の侵入があり玄関はやむを得ず施錠している。また、定期的な職員間での意見交換を行いながら、現状の取り組みの確認が行われている。	現状、身体拘束を行っていないこともあるため、職員間での現状の支援内容等を定期的に確認する取り組みにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者、職員が研修に参加し報告書を閲覧している。業務ミーティングの時も話し合いをし、職員が話し合った対策を掲示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、職員が研修に参加し報告書を閲覧している。業務ミーティングの時などの折に話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時のご利用者様、ご家族様と契約書・重要事項説明書を全て読み上げ確認し、不安や疑問が残らないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱をホーム玄関に設けて意見を汲み取るように努めている。 重要事項説明書に外部の苦情報告連絡先を記載し、連絡が出来る仕組みがある。カンファレンスでも話し合い、運営に反映させている。	家族との交流会を開催しており、家族との意見交換等の機会につなげている。家族からの要望等については、内容等に合わせて管理者に他にも法人事務局での対応も可能である。また、年6回のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課の際に、上司や会社に対する意見を書くことができ、その後の話し合いで意見・提案を話し合う機会があり、運営に反映させている。また毎月の運営会議でも話し合い、反映に努めている。	毎月の職員会議が行われているが、日常的にも職員間での意見交換が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、定期的な職員面談が行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの整備、資格手当を支給するなど、個々の能力に応じた対応をしている。残業をなるべくさせない取り組みも行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のレベルに応じ、法人内外の研修へ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区の事業者連絡会や名古屋市主催の同業種の研修に参加して交流を図っている。また、法人内や協力法人との合同懇親会も行なわれ、意見交換をしてサービス向上に反映させている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にヒアリングをし本人の希望を反映できるようにしている。その後は3ヶ月毎にケアプランに作成し、ヒアリングを行い利用者様が安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前のヒアリングや、契約後も電話や毎月の書面連絡などで随時関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前ヒアリングやケアプラン作成におけるヒアリング・日々の様子観察や家族様との連絡を密に行い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「自分で出来ることは自分で行う」を共通目標としている。食器洗いなどのホーム内作業もお手伝いをして頂き、日々の生活を皆で協力して行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用契約前にご家族様・ホームが互いに協力して利用者様を支援していく旨をお伝えしている。 契約後も面会に来て頂いたり、何かあれば直ぐにご家族様に連絡をさせて頂き、支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人様・ご家族様(身元保証人)の了承があれば、友人・知人・親族の面会を積極的に受け入れている。	利用者の中には、入居前からの関係の方がホームに訪問したり、行きつけの理美容を継続する等、馴染みの関係継続にもつながっている。また、家族との関係が継続している方の中には、一緒に外出する機会が得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の様子観察からの声かけや、毎回の職員ミーティングや話し合いの中で集団支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後、関係機関やご家族様から問い合わせがあった場合、個人情報保護に照らし合わせて必要な情報は提供し、関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様からの生活に対する意見があった場合(食事メニューやレクの要望など)は傾聴し、意向に沿うよう努めている。普段の利用者様どうしの会話などからも、拾い上げられるようにしている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者一人ひとりの把握に取り組んでいる。日常的にも職員間で情報交換を行いながら、利用者の意向等が日常の支援に反映できるように、毎月のカンファレンスにつなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用契約前にご本人様・ご家族様、その他ご本人様を支援している方からヒアリングを行い把握に努めている。 契約後も必要に応じて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	様子観察を個別記録に記入したり、職員同士で申し送りを行うことで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録や利用者様・ご家族様の意向を基に、現状に即した計画を作成している。 3ヶ月に1回の見直しも行なっている。	介護計画については、3か月での見直しが行われている。毎月のカンファレンスを通じて、利用者の状態等のチェックを行い、3か月でのモニタリングにつなげている。また、日常的にも介護計画の内容のチェックにつながる記録を残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別記録やケアの中から、職員間で情報を交換・共有し更なるケアの向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員間やご家族様・各種サービスと連携して利用者様のニーズに対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会に加入しており、お祭りや運動会など地域行事やお出掛け場所などを把握し、支援に努めている。 他にも消防や警察との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回、提携医院の医師による往診がある。その他にも利用者様・ご家族様の希望を第一に、かかりつけ医と連携した受診支援を行なっている。	協力医による定期的な訪問や随時の対応が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もいる。また、協力医療機関の関係の看護師による訪問看護が行われており、利用者の健康チェック等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者様の様子変化については、毎週1回の訪問看護師が来所された時に、相談・報告をして支援に努めている。尚緊急時は随時連絡を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム内でのご利用者様の状況を情報提供するなど、かかりつけ医や入院先病院の医師と連携を図っている。 また、退院後も安心して受け入れが出来るよう、互いに情報交換が出来る関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様・利用者様の意志を尊重しつつ、事業所で出来る事を充分説明した上で各関係機関と連携を図り、支援に努めている。	利用者の身体状態等にも合わせた看取り支援にも取り組んでおり、協力医との連携を深めながら、ホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との意向確認を行いながら、運営法人の関係の特養も含めた利用者への支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訓練は定期的には行っていないが、緊急時の対応についてはマニュアルを作成して話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	区の消防署と連携し、ホーム内で避難訓練を年2回、火災と地震の避難訓練を定期的実施して、防災意識を高めている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認が行われている。法人代表者が地域の方でもあることで、地域の方との協力関係にも取り組んでいる。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	水害が想定される地域でもあり、水害想定訓練の実施等を進めている段階である。水害を想定しながら、現状、敷地内の倉庫に保管されている備蓄品の確認等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の性格や気持ちを尊重するように心がけている。また声掛けの仕方等は処遇会議の場等で話し合いを行い、気持ちの良いサービスにつなげている。	利用者の想いを大切にしたい支援ができるように、職員会議等を通じて利用者への対応の確認が行われている。また、対応が困難な方についても、職員間で連携した検討を行いながら、一人ひとりに合わせた声かけ等に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なかなか思いや希望を表に現せない時は、職員がゆっくりと傾聴したり問いかけたり、時には場所や時間を変えたりするなどして、利用者様が希望を言える様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりの生活ペースを大事にし、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を尊重しながら、季節にあった身だしなみの支援をさせて頂いている。一緒に買い物に行く事も行事に取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る事を考えながら、一緒に料理をし、食事を共に楽しんでいる。	メニューを職員で考えながら調理が行われており、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節に合わせた食事作りも行われている。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は個別記録に記入し、個々に把握出来るよう努めている。栄養バランスは1ヶ月の献立メニューを職員が事前に作成してバランスを考えている。水分の確保が出来る様に細目な声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声かけや付き添っての介助など、利用者様の能力に応じたケアに努めている。一月に一度、訪問歯科のケアチェックをして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	声掛けや誘導をすることで排尿リズムを把握しながら、リハビリパンツから下着に変更するなど少しずつ利用者様の状態に合わせて自立支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。利用者がトイレでの排泄を継続することができるように声かけ等が行われている。また、排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝の健康体操や天気の良い日の散歩、その他運動を行い、水分摂取を増やすなどをして取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	なるべく希望に添えるように行なっているが、ご利用者様の体調や安全を第一に入浴をして頂けるように支援をしている。	利用者が1日おきの週3回の入浴ができるように、入浴拒否の強い方についても、毎日の入浴準備と声かけを継続することで、定期的な入浴につなげている。また、ホーム外での入浴支援にも取り組んでおり、利用者の楽しみの機会につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の入眠の妨げにならない程度に自由に休んでいただき、一人ひとりの状態に合わせた睡眠の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から頂く処方箋にて確認し、薬の把握に努めている。また、職員は念入りにチェックをし、服薬介助者を決めるなどして、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器洗いや洗濯物をたたむなど、お手伝いをして頂き、日々のやりがいに繋げている。居室の掃除、自分の洗濯等も出来る様に支援している。レクリエーションでも個々の特技を活かしたものを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族様と職員で協力しながら出来る限りの支援をさせて頂いています。たとえば散髪は今まで通っていた理容室に通っている等。	日常的にホーム周辺を散歩したり、近隣の公園への散策が行われている。ホームでは、年間を通じて外出行事に取り組んでおり、外食の機会をつくったり、季節に合わせた外出行事が行われている。また、温泉に出かける等の取り組みも行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭は基本的にはホームで管理している。買い物等希望があれば、職員が同行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば職員が取り繋ぎ、やり取りできるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節や行事に合わせた空間作りを行い、ご利用者様が季節を感じ、安心して楽しく過ごせる工夫をしている。	利用者がホーム内でのんびりと過ごすことができるように、リビングには様々な飾り付けや動物の絵を飾る等、アットホームな雰囲気づくりに取り組んでいる。また、利用者がホーム内で日常的に機能訓練ができるような支援も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブルが3セットあり、食事以外の時には、好きな席でテレビを見たり、気の合う方とおしゃべりが楽しめるようになっている。二階にもソファを用意しつろぎの場所として提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が馴染みのものを使用して、以前の場所と生活環境がなるべく変わらないよう工夫をしている。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた家具類の持ち込みが行われており、利用者の中には入居前からの使い慣れた家具類の持ち込みが行われている。また、家族との写真や自身の作品を飾ったり、趣味の物の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内の随所に手すりが付いていたり、分かり易いように張り紙をして、自己にて安全で自立した生活が送れるように工夫している。		